

第1回 北九州市文化芸術推進プラン検討会 会議録

1 開催日時

令和6年6月25日（火）10時～12時

2 開催場所

市庁舎5階 特別会議室B

3 議題

- (1) 前計画（北九州市文化振興計画）の取組状況や市民意識調査結果等について
- (2) 北九州市文化芸術推進プラン骨子案等に関する意見交換

4 出席者氏名

(1) 構成員

久保山雅彦、調弘誓、外山典子、羽田野隆士、藤石美里、◎南博、福本弘明（室園
構成員代理）（◎：座長）

(2) 事務局

都市ブランド創造局長 井上保之 他7名

5 議事概要

- (1) 構成員の互選により南構成員を座長に選任
- (2) 前計画（北九州市文化振興計画）の取組状況や市民意識調査結果等について事務局より説明し、質疑応答
- (3) 北九州市文化芸術推進プラン骨子案等に関する意見交換

6 会議経過

- (1) 開会・都市ブランド創造局長挨拶
- (2) 構成員紹介
- (3) 座長選任・南座長挨拶
- (4) 事務局説明

事務局（資料1から資料5を用いて説明）

【資料1】前計画（北九州市文化振興計画）について

【資料2】文化や芸術に関する市民意識調査結果について

【資料3】南構成員の資料紹介

【資料4】北九州市基本構想・基本計画の説明

【資料5】北九州市文化芸術推進プラン骨子案の説明

(5) 事務局説明に対する質問

南座長

本日は資料5を中心に時間をかけて意見交換させていただくが、その前に資料1から4の部分で、まず何かご質問やご意見等があれば、承りたい。

久保山構成員

意識調査の結果が衝撃的で、どちらかというところ若者はそんなに北九州の文化を評価してないと思っていたところ、かなり高いというところがあったので、実はどういうところに行くのか、芸術文化に関心があるのかなと感じた。

それと、芸術文化に関するアンケートでなかなか難しいのは、その文化芸術の守備範囲が何かというのが、分かりにくいような気がする。食文化もそうだが、どちらかというところ生きざまとかそういうのも文化、文化をつけたら何でも文化になるんじゃないかという感覚があるので、多分受け取り方によって、答えが違う。それが若者と年配の方の違いにも出てくる可能性があるなど、この調査を見て感じた。

ただ若い方々が満足していただけるということなので、それは伸ばしつつ、満足度の低い高齢者の方に対する満足度を高めるための取組が必要だと改めて感じた。

事務局

若い方が意外と満足しているという結果ではあるが、活動の分野として、若い方と高齢者で全くジャンルが異なっている。18歳から29歳の層で、男女ともに音楽については若い方が高くなっている。

一方で、50歳代、60歳代、70歳代の活動分野は、祭りや地域の伝統行事というところが圧倒的に高くなっている。そういった地域に根差した活動をされているのは、やはり50歳代以上の方、若い方に関しては、活動の分野は音楽、一番鑑賞に出かける場所は映画となっている。

福本様

同じように、年代別の「文化のかおるまち」と思う割合で、70代の方が非常に低いというのは意外。これは、高齢者の方が考える文化というのが、非常に高い次元にあるのか。その辺の理由は何だろうかと思う。

事務局

どういったところが文化のかおるイメージかというのは直接聞いてはいないが、調査結果を見ると、高齢になるにしたがって、少しずつ文化芸術に触れる機会、なかなか美術館に行けなかったり、アクセスの問題であったり、健康上の理由、介護が始まったりというような背景があり、触れる機会から遠ざかってしまっているのではないかと。

「文化のかおるまち」というクオリティの高いイメージを持たれているのではないかと。それに達しているかどうかと考えたときに、まだまだそこに至ってない。少し高

い次元で文化をとらえている世代なのかなという気がする。

調構成員

この調査結果を見ると、若い人が直接鑑賞する割合が高い。内容は音楽や映画ということだが、一方で鑑賞しない理由では若い人たちは興味がないとか、多忙であるのが理由。興味があるものがないとか、忙しいことを理由に触れないということで、満足度が低いのかなとか、読み解きが難しいと思いつつ、拝見した。

もう1つ、文化芸術がどの範囲なのかというのが私も正直、このプランを見ていて、難しいというか、どういうものをイメージするのかというのは、プラン策定にあたって、何となくみんなのイメージが共通してないとちぐはぐな感じになる。

事務局

文化芸術基本法で、いわゆる音楽や舞台芸術など色んなものが国の法律で定めてあり、その中で生活文化という項目もあり、茶道や囲碁なども入っている。今回このプランで捉えるのは、いわゆる音楽や伝統芸能、お祭りから、食文化や市民にもう少し距離の近いところの文化まで包含していきたいという思いを持っている。

身近すぎてあまり気づいてないところにもう少しスポットライトを当てて輝かせていきたい、それが都市のブランドに繋がっていくのではないかとこのところ、今まで食文化は入っておらず、崇高な質の高い文化芸術みたいな計画だったのを、プランということで、皆さんがイメージしやすいものにしていきたいという思いがある。

調構成員

これは映画やアニメと分けて、エンタメという紹介をしているが、エンタメというのは文化芸術なのか。

事務局

法律の中でもメディア芸術というくくりで、例えば映画やアニメ、ゲームといったものまでも含んで、文化だという捉え方をしているので、もっと幅広に、デジタルアートのような新しいジャンルもあるし、北九州はわりとそういうところが強いところもあると思う。

羽田野構成員

現状把握として今までやってきたことを書いているが、それはあまり参考にならないような気がする。

要は資料5で市の方針としては、「稼げるまち」とか、いろいろ多岐にわたってやろうとしている。まちのにぎわいの構築とか、そういうことが非常に前面に出てきている中で、今までやってきたことを見てもあまり役に立たない。

だから、むしろ過去のことは払拭して、新しい体制のもとに市長がミッション、基本理念を作りましたよと。この中で、文化芸術の役割は何なのかということ議論して欲しい

というふうに、私は受けとめた。そうすると、先ほどから話が出ているように、ここでいう文化芸術は何なのかとなる。我々の世界では Plan-Do-Check-Action という言葉になるが、現状把握をして市民が何を望んでいるのかということから問題解決をするのではなくて、今まではこういうふうなことをしてきたが、今回新しい市長が誕生して、特に「稼げるまち」の中に文化も寄与して欲しいということだと、受けとめた。

事務局

今回、これまでの取組や調査結果、課題と思われるところをご紹介させていただいたが、それは参考ということで、そういった情報も踏まえて、おっしゃるように新ビジョンが策定された。

羽田野構成員

最初にこれを見ると、要するに今から我々が取り組む課題としては、人材育成とそれから文化施設が老朽化しているなのでこの辺をというふうに読み取れる。

そうではなくて、今から稼げる、元気が出る、企業も潤う、法人税も増える、そういうまちの中の文化芸術の役割を、まとめて提案して欲しい。

事務局

こちらとしても、そういった方向で考えていけたらと思う。

羽田野構成員

承知した。一番聞きたいのは、文化芸術の範囲。例えば、わっしょい百万夏まつりや、それぞれの区や町内のお祭り等いろいろあるが、これも文化芸術の中に入れるということか。そうするとゴールは、要するに「稼げるまち」で人がたくさん北九州市に来てくれるということがゴールになるのか。

事務局

今回は「稼げるまち」も挙げているが、そこだけではなく、住んでいる人が、このまちに住んでよかったと思えたり、心のわくわく感や安らぎがあったりするところも文化芸術の要素としてあるので、考え方をどこか1つに特化するということではなくて、それぞれがうまく回っていけるように考えたい。もちろん稼げるということも1つの要素。

羽田野構成員

いま一般的に、観光はインバウンドで、どこも食に力を入れている。芸術もあるが、食は絶対離せないで、食プラスアルファの方向になってくる。そうすると、食文化はなかなか離しにくいのではないかと。最初に議論する対象を整理しておきたい。

南座長

どこからどこまでを食文化としてとらえるのかは、確かにすごく難しいところで、文化庁が言っている食文化としては、例えば、今年も確か産業経済局で文化庁からの補助金を取って、ぬか炊きに関するようなものを食文化としてより発展させようという取組もあれば、焼きうどんなども食文化として認められている。そういった意味では、一方で、先ほどご説明であった寿司や焼肉など、そういったものも含むということで、明確にどこで線を引くのかということのは非常に難しい。

なので、幅広に対象をとらえて議論をしていって、取りまとめの段階でその辺りを市民の方にどのような形でお見せするのがいいかというのを検討するのはどうか。

事務局

文化芸術の範囲は国が基本法の中でうたっていて、結構な領域をカバーしているものがあるので、ご用意する。

基本的にはこの資料5を中心に、前回のものは振り返りとして見ていただければと思う。

(6) 意見交換

南座長

資料5で骨子として示されているので、これについてももう少しこの部分に注力すべき、この部分は特に重要だから強調すべき、あるいはもっと全体的な話でも結構なので、ご意見をいただきたい。

まず、事務局から大島構成員のご意見をご紹介いただきたい。

事務局

大島構成員から大きく3つ、ご意見をいただいた。

まず、「まちに彩りを。心に豊かさを。多様な人を惹きつける文化成熟都市」という基本理念については、ウェルビーイング (well-being) は国の第4期教育振興基本計画でも掲げられているもので、キーワードとしてはよいと思う一方で、ウェルビーイングというカタカナ用語が一般にどの程度浸透しているかというのは、あまり分からないところであるので、解説を付した方がいいのではないかというご意見をいただいた。

大島先生は社会教育、青少年教育というところに携わっていらっしゃるので、こういったご意見をいただいているというふうにご考えており、素案や骨子の段階でもう少し解説を入れたい。

2点目、黄色の(1)の「次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」の部分の学校へのアウトリーチというところで、子ども向けのことを書いているが、もっと地域全体で子どもや若者を育むという視点を入れた方が良くはないか。文化活動は学校だけではなくて地域の受け皿であったりとか、地域にいろんな人材がいらっしゃるの、高齢者も含めて、子どもたちの文化芸術の活動を支えるというのを学校だけではなくて、もう少し広い視点でとらえてはどうか、というご意見をいただいた。ここは地域の視点が非常に大事なので、我々としてもそこを付け加えさせていただきたいと考えている。

最後3点目、黄色の下段の「誰もが文化芸術に親しみ楽しめる環境づくり」の部分で、もっと高齢者のパワーを文化芸術振興に活かすという積極的な姿勢を示せるといいのではないかと、というご意見をいただいている。北九州市は高齢化が政令市で最も進んでいるので、そういったところをもう少しターゲットととらえて、生きがいづくりや健康寿命に関わる文脈で、高齢者の活躍という視点を追加してはどうかというご意見で、これも我々としては、そこも含めて、高齢者のところが意識調査でも低いという結果が出ているので、そういったところも踏まえて追加していきたいと考えている。

南座長

大島構成員からはご専門に基づいて、今のようなご指摘をいただいているというところ。それでは、本日もご出席の構成員の皆様方からも、ご意見をいただきたい。

久保山構成員

最初に見たときに、文化成熟都市というのに違和感があった。文化が成熟するというのとはどういうことなのか。あとは今、根底として流れるその地域の文化と、若者や外から人を呼び込む文化は、ちょっと違うような気がしていて、そうすると、成熟都市というのを前面に出していいのだろうかというのが、実は気になっている。

先ほどの南構成員の調査の結果の中で、オペラなどが関心度が低いというのもあったが、オペラは実は総合芸術で、いろんなオーケストラもあり、声楽もありという面から、なかなかそういうのができてないというのものもある。成熟都市というと、何となくヨーロッパのオペラを沢山やるとか、まちなかで音楽が聞こえるとかそういうイメージを持ったので、そういう意味で、イメージしている文化芸術から成熟都市とは何なんだろうというのが、お聞きしたかった。

2つ目は、黄色の部分の下の方にインクルーシブという言葉があるが、ぱっと見て障害のある方のことは見えないなと感じた。先日、私どもが文楽という人形劇をやったが、その時にお客さんを見ていると、白い杖の全盲の方が沢山いらっしゃった。多分、聞くということで楽しめるということなんだろうなと思う。そうすると、きっと、全盲の方には楽しめないだろうねというふうに、こちらが勝手に思っている芸術文化も、実は違う楽しみ方が皆さんあるんだろうなと思ったので、そういう意味では障害のある方が楽しめるように工夫していく、そういう文化の取組もあっていいのかなと思う。

芸術祭も障害者芸術祭と芸術祭で分かれているが、別に分ける必要はないのかなと思ったりしたので、インクルーシブという言葉が入っているのであれば、それはそれでよろしいとは思いますが、障害のある方や不登校の方もそうだが、とにかく外に出てきてもらわないと、社会の一構成員としてできることをやっていただくような活動をしてもらわないといけないんじゃないかなというふうに思ったので、それが2点目。

3つ目は、観光プランができるのかどうかというのは、ちょっと分からないが、文化でインバウンドというのは、先ほどもあったように、いかに海外から人を呼び寄せるかというのも、必要だと思う。そういう意味で国際という視点で何かあるかと思ったら、全国か

ら多様な人が集まるとかというようなことがいろいろあるが、この際、海外も打ち出すような強力な文化プランでもいいのではないかと思った。

私どもで今年9月に、松本潤さんなどが来るNODA・MAPの「正三角関係」を上演するが、実は台湾や韓国などからもそのチケットを一生懸命取っている。自分たちのファンクラブじゃ取れないから、ネットでそういうふうアクセスしていることを考えると、私どもがやっている事業も、海外から引きつけるようなものにできる気がする。それを、例えば1つの事業として終わらせるのではなくて、そういう人たちをいかにまちで滞在させて、お金を落とさせるか、というような取組まで視野に入れたいといけないのではないかと思ったので、せめて国際の視点と、観光プランができるんだったらそっちの方でそれを入れて、そういうところに繋げるようなものになったらどうかと思ったのが3つ目。

それからもう一つ、埋蔵文化財についても、きちんとやっていますよというのを見せて欲しいなと思う。

南座長

今、ご指摘いただいたうちの1点目の成熟のとらえ方については事務局のお考えをという部分かと思うが、それはまた後でまとめて事務局の方からコメントをいただきたい。

調構成員

私もこのプランを最初に拝見して、よく出来ているプランだと思った。幅広くいろんなものを整理して出来ているプランかなと。取りこぼしのない感じになっているというふうに思ったが、一方でその逆で、結局計画期間5年間たって、ゴールとして、これを5年間という期間で全部やっていくと、どういうふうに成果が出るのかというのが、ちょっと総花的だと感じた。行政の役割というのは、NHKもちょっと似ているところはあるが、公共放送という立場なので、この世代だけの放送というのはなかなかできない。いろんな世代に多様に見てもらおうということを考えがちで、行政もそういう立場もあるだろうから、全般的に網羅した形になっているのかなと感じた。

なので、何か足りないというふうには感じないが、先ほど羽田野さんがおっしゃったように、北九州を「稼げるまち」ということで、「稼げるまち」にしないとその文化芸術を楽しむ余裕も生まれにくい育たないという、どこからスタートするかなんだと思う。素地があった上で積み上げていくか、稼げる経済的に豊かなまちをつかって、そこから芸術を楽しむ余裕を生むか。そういうふうに動かしていくのか、どちらからスタートしていくのか。そこからすると、結局5年間で何が成果としてできるのかなというのが、若干難しい。

一方で、「稼げるまち」という意味では、話題性のあるエンタメコンテンツを中心にやるというのが手っ取り早い気はする。一方で多分、高齢者の方が民謡をやったり何かやったりが生きがいになっている部分もあるだろうし、そういうところをきちんと支援していかなければならないという面もあるので、やはりちょっと難しいなと思った。

今日、羽田野さんの先ほどのお話も聞いたり、市の方からのご説明も聞いたりして思っ

たのは、5年後のゴールは何を目指しているのか、どういう姿を目指しているのかというのをもうちょっとクリアにお聞きしたいということと、文化芸術の範囲はどこなのかという話で、幅広く見ていこうということだが、前に政治部で国の会議を聞いていたら、日本は意外と日本が強みがあるエンタメコンテンツに対して意識が低いというか、稼ぐように作っていない。今、韓国のドラマや映画が、日本以上に世界でも席卷して稼いでいると思うが、そういう視点が10年前くらいの会議では薄かったなど。アニメや映画も、しっかり文化芸術として稼げるものだと思うので、そこもちゃんと位置付けた方がいい。

あと、振り返りにもあったが、やはり財源不足というのはあるのだと思う。財源不足で持続可能性ということを考えると、市民がやるところと、企業が支援してやるところと、行政がお金をかけてやるところをちゃんと仕分けして、緑の部分は行政がということなのかもしれないが、青い部分は市民が自らやるところもあるだろうし、黄色の部分は学校を活用して地域でできることもあるだろうし、その辺りの仕分けをしっかりと、行政、市として注力するところが何になるのかというのをプラン作成の際には確認しておいた方がいい。

あとは我々ここに住んでいる人たちが、北九州が他にない強みというのをしっかり知ることなのかなと思う。どこの地域も観光でいろんな人に来てもらって稼ごうということは考えていることなので、北九州が何に強みを持っているのかは見失わない方がいい。

あとは、最後はどうPRしていくか。北九州に来て1年だが、本当に魅力的なまちだと思うし、これが決定的にないというものもない、いろんなものを持っているまちで基盤はあると思うので、それをどうやってPRしていくかというのを考えていかなければならないと思う。派手な成人式は、1年前までは評判が悪く、怖いまち北九州の象徴みたいになっていたと思うが、市長が逆手を取ってPRしようということで、ガラッと雰囲気が変わって、それが魅力になったりもしているので、PRの方法というのはうまくやっていかないと、せっかくやってもなかなか伝わっていない。

あと、最初から全国にとか、東京に、国際にというより、隣の福岡市ですらあまり北九州市の魅力を知らないというところもある。人口は福岡市に吸い取られているのだから、週末のイベントなど、文化芸術で福岡市に集まった人を、北九州市に呼ぶというところからスタートして、どんどん広げていくことかなと。きちんと持続しながら育てていかないといけないなと思った。

外山構成員

私は学校教員なので、まず、黄色の部分のことを質問したいと思う。

全体的に見るとすごく耳触りが良くて、よくまとまっていると思うが、「若い世代が郷土の歴史と文化に興味を持つきっかけづくり」では、具体的に何なのかというふうに考えたときに、ちょっと具体性がないと思う。資料1に戻って申し訳ないが、施策3で、小学生向け美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」というのを、実は私が指導主事の時代に立ち上げた。北九州市に住んでいる小学校3年生の子は全員、美術館に行った。3年生で建物に触れるだけでもいいなと思った。そして美術館のパンフレットを作ったが、その時に

美術館から見える景色、そして美術館の中にあるレストラン、こういうところも美術館の魅力だと。だから、絵を見るだけが美術館ではなくて、将来のデートコースにしてください。本当にこう、いわゆる「稼げるまち」じゃないが、繋げて、そして次世代に繋ぐというか。どんどん繋がりができればいいなと思って、小学校3年生で7年間やってきたが、今年度からその事業が廃止された。ちょっとびっくりしたが、もう1つの検討資料を見ると、若い世代は文化芸術に興味がない。18歳です。あの子たちは一番マックスで何歳になっているのかなと考えたときに、16歳。だから、もうちょっと下の世代まで聞いてくれると美術館で何か楽しかったなというところを、これに反映できたかなど。逆に言うと、ここに興味がない、だから小学生に行かせるのをやめましょうというのは、ちょっと安易かなと思う。もう、今年の予算は決まっているから、私が今どうこう言ったところで、復活はできないと思うが、これは学校の方もすごく評判がよかった授業。なので、ここに興味を持つきっかけづくりと書くのであれば、やはりそういうこともきっかけとして。家族で平和のまちミュージアムは行かないと思う。去年、一昨年はできたから絶対行けということで、6年生は市の方から行くようにと言われて、もう何日の日と決められて、この日は学校行事があると言っても、調整するからと言われて、英語村と平和のまちミュージアムはそういうふうにあったが、2年間したらもう行かなくていいと。今年ももうゼロ。本当に学校現場がものすごく、ハテナがついている。それなのにここに、興味を持つきっかけづくり。本当に耳障りはいいけれど、実際には今年度からしないんじゃないかというふうに思った。とても残念。やはり若いときは、ちょっと年配になったときとかも、「今日は雨が降っている。どこもお出かけするところがないな。ちょっと美術館に行ってみようか。」と言って、イオンに行くだけではなくて、美術館に行こうかというちょっとした観光の1つになってくれるかなと考えている。なので、こういう素敵な美術館があるんだよということを、是非、小さいときに知らせてあげたいなと思う。

実際に、北九州市立美術館は便利が悪い。うちの親も年取ったら行かれないと言っている。じゃあ、ということで出来たのが分館だったはずだが、分館の方も今度から無くなるということで。これをどうしたら稼げるんだというふうに考えたら、ちょっと閉館時間を長くするとか、いろいろ使い方はあったんじゃないのかなと思う。先程の、海外のパッケージにしたかどうかという意見に、私もすごく賛成で、小倉城庭園にお茶の関係で行ったときに、海外の人から美術館はどこにありますかと聞かれる。本館は海外の人が行くには難しいですと言って分館の方をご紹介するが、そしたらやはり、小倉城庭園からも近い分館に行く。分館に行ったついでに、リバーウォークでご飯か何かを食べてくれたらそこでお金を落としてくれるかなということで、1つのパッケージにしていただけじゃないかなと思った。

もう1つ、食文化というところで、これは学校給食に関係があるのかなと思って見ていたが、今年度からミシュランシェフによる給食というのがある。昨日も出て、確かに美味しいが、実際に子どもたちがミシュランシェフだからおいしいって言っているわけじゃなくて、また、お母さん方の意見を聞くと、そういうことではなくて、北九州市の地産地消、安全な食を給食で提供してくれるから北九州の給食はいいんだという意見を多く聞く。私

のクラスに、東北で震災にあった子が、本当に小学校2年から3年にかけて担任をしているときに来たが、そのご両親にどうして北九州を選んだのかを聞くと、北九州の食が安全だからと言われていた。そうなんですかと言ったら、北九州には知り合いも誰もいない、九州に誰もいないけれど、いろいろ調べたら北九州の給食がすごく安全だということが分かったのでもここに来ました、と言われてたときに、これも誇れる文化の1つだなと10年前に思った記憶がある。なので、こういうふうに書かれるのなら、もうちょっと具体的に給食とかも地産地消で安全です、というふうに具体性があったら嬉しいと思った。

それで、きっかけづくりというところにもものすごく引っかかっている。かえってきっかけを失くしたのに、何できっかけづくりなのかなというふうに思った。市長からの手紙が私たち公務員に回ってくるが、市長からの手紙の中にも、老若男女が関係なくフェアに楽しめるものはスポーツとアート、と書かれていて、そのあと全然アートについて書かれてなかった。スポーツのことで稼げたからもういいと思ってアートのことがなかったのかなと思って、すごくそこも残念に思っている。アートでいくらでも稼げると思う。北九州市立美術館は、西日本でも本当に指折りの所蔵をしている。ものすごく価値を持っているものもあるし、そういうものをどんどん出して行って、稼げる美術館にしていってもらえたらどうかなと思う。そして、稼いでもらって、そのお金で、また小学生がもう一回、美術鑑賞ができれば良いなというふうに考えている。

羽田野構成員

先ほど調構成員がおっしゃったことに尽きるが、これ自体はまったく悪いところはない。素晴らしいと思うが、なんとなく総花的な感じ。要するにゴールがなんなのかということの方が分かりにくいところがある。かつて美術館について意見が2つ分かれた。美術館というのはたくさんの人を呼ぶのが目的じゃなくて、いい絵をたくさん飾って、その高尚な芸術をとという意見と、せっかく美術館があるんだから、費用対効果を考えたらもっとやっぱり入場料が増えるような、政策をやらないといけないのでないということで、それでどっちかっていうと後者の方になって、教育委員会から担当が変わった。つまり今は、稼げる美術館ということでの統一をされているので。そういうふうなことになる、あくまでもゴールは、たくさんの人に北九州に来てもらうというその中で、芸術は何だよと、そうになると、食も入ってくるとか、いろいろ多岐にわたるので、これ自体は素晴らしいが、もう少し総花から重点志向に整理されて、あと総花のところはもう少し小さいものにまとめて分かりやすくしたほうが、例えば広報なんかでもそちらの方が分かりやすいかなという感じがする。言っていることが総花で申し訳ないが、何となく描きにくい。何をしようとしているのかというのはちょっと描きにくいので、はっきりしているのは、「稼げるまち」とか人がたくさん来るとかで、そうになると例えば食でも、北九州の今の売りは寿司。例えば6万円ぐらいの寿司屋さんがあって、これが今売りになっているような時代なので、それと食と芸術と、あまり関係ないような感じがするものの、稼げるということになると、何かその辺で作らなければならないので、総花から少し重点指向されて、ゴールをはっきりしたほうが、意見も出しやすいし、議論もしやすい。

藤石構成員

私も今回のお話を頂いたときに、文化はどこまで入るんだろうというのが気になった。目標の中に多様な人を惹きつけるとあるが、惹きつけるというのはおそらく、魅力を感じて来てもらうということだと思うが、大人数に1回だけとりあえず来てもらうのか、それともリピーターを増やすものか、住んでもらう段階までにするのか、それこそゴールがどれかによってまた、目標なども変わってくるのではないかなと思う。

私からは、多様な人を惹きつける、緑の部分について、いわゆるZ世代と呼ばれる立場からの意見を考えてきたが、やはり、先ほどの若者の意見にもあったように、私たちは映画などが一番触れやすい文化で、そうなると、北九州は「映画のまち」で力を入れていると思うので、撮影をもっと行って撮影地として有名になって、ロケツーリズム、コンテンツツーリズムの観点からも、いわゆる最近流行りの聖地巡礼もできるようにして、先ほどのような食文化もいいとは思いますが、食文化はどの場所でもできること。しかし、聖地巡礼であれば、その場所でしかできないことになるので、ここにしかないものを作っていたら、もっと人を呼び込めるのではないかなと思った。

また、最近、平成中村座も行われていて、他にも、ライブやバレー、わっしょい百万夏まつり、小倉祇園などもあり、私は小倉北区の飲食店でアルバイトをしていて、売上金額がその時はすごく上がる。だから、数字としてもしっかり出ていて、つまりそういうイベントがあると、日頃来ないような方々が、北九州にいらっしゃっているということだと思うので、これからも祭りやイベントは、経費はとてかかるだろうが、その分、お金は落としていってもらえていると思うので、これからも積極的に行ってもらいたい。小倉城もあるので、お店には海外の方も本当に多くいらっしゃっている。

先ほど美術館についてのお話があったが、自分達も正直な意見を言わせてもらうとあまり行く機会がなくて、なのでもっと行きたいと思う展示が欲しい。例えば、チームラボとコラボしたものであったり、いわゆる私達世代はSNSとか映え重視なので、そこにしかできないものができるようになったら、魅力を感じて行こうと思う。福岡市美術館も撮影OKの展覧会をこの前行っていて、美術館と言えば見るものなので、そのスタンスをどこまで崩しているのか分からないが、現代の人を取り込むというのでは撮影や、新しい今の時代に合わせた何かが行われたらもっと来るのではないかなと思う。

若い世代の小学生などに芸術に触れてもらうというので、私達が小学生だったときも芸術鑑賞会を小中学校の時に行っていて、響ホールで、雅楽の鑑賞を行ったり、ソレイユホールで劇団四季さんの公演を見させてもらったりして、そういうところはなかなか自ら見に行くことがないので、あの機会はずっと嬉しくて楽しみにしていた。小さい頃からそういうものに触れる機会をこれからも残してほしい。

あとは他からもイメージであまり良い印象がないとか、他県の人からの印象といえば、北九州といえば、これといったものがないというのが大半らしいので、文化は色々あるが、北九州といえばこれというものを今後、何かしら作ることができれば、人を呼ぶことに繋がるのではないかなと思った。

文化とは少し逸れるかもしれないが、小倉北区がやはり小倉駅もあって中心になると思うが、あまり長期滞在できるようなところがないというのが観光、人を呼ぶ面での課題なので、文化の力を使って長期滞在できるような場所を、北区に限らず7区で何か作っていただけたい。

福本様

私は文化連盟の立場でいうとこの黄色いところが直接関わるが、ここはゴールが見えにくい。もしあるとしても5年先、10年先、もっと先かもしれないという感じがする。文化連盟は、高齢化を切実に感じていて、できるだけ子どもさんたちに文化に興味を持ってもらうきっかけを作りたいという話が出ている。小中学校に出前授業をしたらどうかと。出前授業をするにあたって、1時間の授業で、この団体はこういうことができるというリストを作って、学校に選んでもらうことを考えている。しかし、学校は現場のカリキュラムが非常に窮屈そうで、そういう時間を取るというのも難しいのではないかと課題はあると思う。

今、スポーツ部は、地域の方を指導者に迎える話が出ているが、ぜひ文化部も同じように、地域にもすぐれた知識なりを持った方がいらっしゃるので、同じように考えていただければいいのかなと思う。予算というのも1つ、気になるところ。文化連盟の会員には高齢者が多いが、ボランティア精神旺盛なので、その辺はあまり考えなくても、できるのではないかと思うので、ここの黄色い部分もぜひ民間をもっと活用していただきたいと思う。

南座長

各構成員の皆様から非常に多様なご意見をいただいた。私もお話を伺いながら思ったのが、そもそも文化芸術というのが、非常にジャンルとしても、ものすごく幅が広い、人によってイメージのとらえ方が違う。それから、いわゆる非常に格調高いというふうに誰もが考えるものから、ある意味公序良俗に反するかどうかぎりぎりのところのものまで、そういう広さもあり、値段的にも活動するにせよ見るにせよ、非常に高価なものから無料のものまで身近に楽しめるものの中で、非常に多種多様であるというのが、大きな特徴であると思う。

その中で今日いただいたご意見を事務局ではしっかりとご検討いただいて、また次回の提案につなげていただくということかと思う。例えば重点化をしていくかどうか、そういったような部分も、今回のこの資料5の一番上のグレーのところ、文化芸術が目指す大きな方向性を定め行政や関係団体、企業や市民とのベクトルを合わせるためのプランということであれば、やはりある程度そのベクトルを合わせやすくなるような見せ方が必要なので、そういった意味では本日いただいたご意見をしっかりと踏まえていただければと思う。

あと、これは次回以降の話で、今回この参考でお示しいただいたプランの全体構成の「プランの推進」のところの推進体制や、推進にあたっての指標というのがまた今後示されることかと思うが、プランの位置付けがベクトル合わせであったり、あと、計画期間などを

考えたりすると、ここはまず推進体制は今、福本様や他の方からもご意見がいろいろあったように、基本的にはその担い手である市民の皆様、企業の皆様、団体の皆様というのが非常にポイントであり、行政はそれをしっかりと支えていく、分野によっては行政がリードしていくという部分もあるのかもしれないが、その辺りを概念的でもいいのでお示しをいただく。あと指標は今回のこのプランの位置付けからいくと、非常にもう、ざっくりとしたもので、むしろあるべきなのかなと。あまり個別具体的に、この指標がこう上がるというふうな感じのものではないと個人的には思う。

もちろん、そうではないというご意見もあるかと思うので、そのあたりも含めて、事務局の方でもしっかりとご検討いただきたい。

特に、冒頭の方でご意見いただいた、例えばこの「成熟」はどういう意図で示されたのかを事務局にお答えいただきたい部分もあるが、時間の関係上また次回、ご意見をいただければと思う。

構成員の皆様、追加でご発言あるいは次回までに事務局への要望があればうかがいたい。

羽田野構成員

確認だが、我々で言うお客様。マーケットインで考えたときに、つまり、市民と、それからもう1つは、市外から人を呼び込む。その2つのお客様で考えるということでもいいか。

事務局

両方の視点がある。文化観光という視点であれば、どちらかというとし外、先ほどご意見があったように、国内だけではなくて、もしかしたら国外からも、いらしているというようなところも含める。

おっしゃったように、ターゲットはおそらく稼ぐとか、集客とかいう点で見ると、市外の方が中心になってくるが、一方で市民というターゲットも必要なもので、両方が2つの柱でターゲットになる。

もう1つは文化芸術は演じる側と観る側と両方あるので、双方が主役になるようなプランであって欲しいというのは我々の思い。なので、ターゲットが人の面でいくと、市内、市外。それから、演じる側、鑑賞する側。両方の面が必要というふうには思っている。

羽田野構成員

もう1つ、いわゆる稼げるということを意識すると、これはあくまでも文化芸術ということで、今の北九州市はスポーツが結構盛り上がっているが、それは除外して、スポーツに関しては他のところで考えるというふうになるのか。

事務局

まさにこの文化のプランと同時並行でスポーツの新ビジョンを作っている。これは別々の計画で、他にも観光は観光でインバウンドプランを作っていて、運用の中で当然重ねていくという形になる。

ただ、ジャンルがどうしても違うので、プランに関しては別々で、ただ同時並行で今、進んでいるというところ。

南座長

繰り返しになるが、多様なご意見をいただいたので事務局でしっかりご検討のうえ、次回は具体的なプランの素案をぜひお出しいただきたい。次回はそのプランの素案をもとに、この会で意見交換できればと思う。事務局から事務連絡があればお願いしたい。

事務局

次回は8月21日水曜日の10時からこの場所で開催を予定し、本日のご意見を踏まえてどこまで盛り込めるかというところの検討や、ご説明が足りなくて、そうではないというところもあると思うので、そこは次回、骨子を少し修正して、素案文書にしたものをお示ししたい。

南座長

それでは、以上で第1回北九州市文化芸術推進プラン検討会を終了する。

7 問い合わせ先

都市ブランド創造局 総務文化部 文化企画課 文化企画係
(電話番号：093-582-2391)